

平成29年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成30年3月30日

報告者	学科名	看護学科	職名	教授	氏名	沖本 克子
研究課題	RCAに基づいたインシデントレポートの分析と医療安全文化の変化					
研究組織	氏名	所属・職		専門分野	役割分担	
	代表	沖本克子		看護学科・教授	小児看護学	研究の総括・実施
	分担者	網野裕子 犬飼智子 高林範子 鈴木千絵子		看護学科・助教 看護学科・助教 看護学科・助教 関西福祉大学看護学部・准教授	小児看護学 成人看護学 基礎看護学 老年看護学	研究の実施・会計 研究の実施 研究の実施 研究の実施
研究実績の概要	<p>【研究の概要】</p> <p>本研究は、保健福祉推進センターに所属する岡山医療安全研究会（沖本（代表）、網野、犬飼、高林、鈴木）によるRCAに関する調査研究である。</p> <p>RCA（Root cause analysis：根本原因分析）は、米国の医療機関でスタンダードとなっているインシデント・アクシデント報告事例の原因分析であり、対策立案・実施・評価まで一連のプロセスを誰もが実施できるように考えられた手法である。日本国内の多くの病院で、このRCAを用いてインシデント等の分析が行われているが、医療安全管理者は別として、多くの医療従事者がRCAに関する知識と技術がまだ十分に身につけていない状況にある。そこで、本研究会は、RCAに関する知識と技術の普及を図り、地域の医療安全に貢献するために、RCA手法を学ぶ研修会を岡山県全医療施設の医療従事者を対象として継続的に開催している。</p> <p>本研究会は、RCAに関する研修会が継続的に開催されることにより、医療施設の医療安全文化に変化がみられるのかどうかを明らかにし、RCAに関する研修会の地域の医療安全への効果を測ろうとするものである。なお、医療安全文化は、平成13年厚生労働省医療安全対策検討会のヒューマンエラー部会によれば、安全な医療を提供するために特に重要な項目の第一番目に挙げられている。</p> <p>研究デザインは縦断的横断的研究であり、3年間にわたり、RCAに関する研修会に参加した医療施設の医療安全文化を調査する。研究の対象者は管理者を除く看護職者とし、調査内容は①社会的背景、②Matsubaraによって開発された「医療安全風土尺度」を用いた医療安全文化である。</p>					

※ 次ページに続く

<p>研究実績 の概要</p>	<p>【研究の経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 2016 年度に実施した第 1 回調査のデータを記述的に分析し、結果の一部は次のとおりであった。「自由なコミュニケーション」の項目では、下位項目の「気軽に質問」は 60%ができていると回答していたが、「納得いくまで話し合う」は 40%しか出来ていると回答していなかった。「継続的改善」の項目では、下位項目の全てで 50~60%ができていると回答していた。「報告と規則の遵守」の項目では、下位項目の 70%前後ができていると回答していた。「患者と家族の参画」の項目では、下位項目の 30~40%ができていると回答しているに過ぎなかった。「上司の安全リーダーシップ」の項目では、下位項目の 60~70%ができていると回答していた。 ・ 2017 年度の第 2 回調査のために、丸山雅道氏（岡山大学病院看護師長）を講師とした RCA に関する研修会を開催した。（2017 年 9 月 16 日（土）於：県立大学）研修内容は次のとおりである。RCA の基礎的知識に関する講義後、5~6 名のグループに分かれて演習を行った。演習は、インシデント事例を RCA に基づいて分析し、対策を立てるというものであった。最後に、その成果を発表し、参加者全員で共有した。 ・ RCA に関する研修会への参加者に終了後アンケートを依頼し、回答をデータベース化した。 ・ 2016 年度の第 1 回調査に研究の参加の同意が得られた医療施設に、第 2 回調査票を配布する準備を行った。 <p>【2018 年度の予定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 2 回調査の調査票を配布後、回収したアンケートをデータベース化し、記述的に分析していく予定である。 ・ 丸山雅道氏（岡山大学病院看護師長）を講師とした RCA に関する研修会を開催し、第 3 回調査を行う予定である。 <p>【地域貢献の波及状況】</p> <p>RCA に関する研修会の地域貢献の長期的波及状況は、調査が終了していないため現時点では明確に数値をもって示すことはできない。そこで、前述の実施した RCA に関する研修会の終了後アンケートから、研修会の短期的波及状況を紹介する。</p> <p>研修参加者の職種の大部分は看護師であるが、臨床検査技師、事務職員、作業療法士、介護福祉士、放射線技師などの参加もあった。アンケート回答者のうち、研修内容が「とても良かった」「良かった」と答えた参加者は 87.0%であった。自由記述には、「RCA 手法がよく分かったので、今後病棟でやっていきたい」「何か事件事故があったとき、個を責めるのではなく、他方面より根本原因を分析し、改善できることは改善したい」「病棟で実施したが、考え方がわからず、うまくまとめることができなかった。今回研修を受けて考える順序がわかり、次回に生かすことができると思った」などというコメントが寄せられた。</p> <p>参加者の多くは中小医療機関に属していた。中小医療機関は大規模病院に比べ医療安全に対する予算も十分ではないと考えられるので、本研究会の RCA に関する研修会を継続的に開催することは地域貢献に大いに役立っていると考えられる。</p> <p>2018 年度も RCA に関する研修会を開催予定であるため、今後、研修会参加者が増加することにより、医療安全に対する感性も少しずつアップしていくものと考えられる。</p>
<p>成果資料目録</p>	<p>2017 年度 OPU にて、2016 年度の第 1 回調査の結果を発表した。 2018 年度 OPU にて、2017 年度の第 2 回調査の結果を発表する予定である。</p>